

白石市の経済産業の現状と今後の成長の方向性

はじめに

東日本大震災（以下、「震災」という。）の発災から間もなく4年を迎えようとしている現在、宮城県内の市町村では、沿岸部の被災自治体を中心に各震災復興計画等に基づいた復興への取り組みが進められている。沿岸部の自治体の復興は道半ばではあるものの、工場や住宅などの再建が進行しているほか、被災した市街地の嵩上げなどが進められており、新たなまちの姿が徐々に見え始めている。

一方、内陸部の自治体では、震災に伴う人的・物的被害は沿岸部に比べれば小さかったものの、総じて少子高齢化等による人口減少や基幹産業の衰退・低迷、中心市街地の更なる空洞化などが進行しており、従来から指摘されてきたこれらの課題への効果的な対応策が見い出せていない状況がうかがわれる。

本レポートは、このような状況を踏まえ、本県内陸部の幾つかの自治体を採り上げ、当該自治体の経済産業の現状を概観し今後の成長の方向性について検討したものである。今回は第1回として白石市についてレポートする。

1. 白石市の経済産業の現状

(1) 人口動向

2013年12月末現在の白石市の人口は3万6,459人となっており、県内35市町村中の順位は14位となっている。2008年以降の推移をみると、毎年400人強の減少（自然増減：約250人減、社会増減：約180人減）が続いており、ここ5年間で2,168人（5.6%）減となっている。人口の減少数および減少率を県内の市町村と比べると、それらが大きい方から数えて、減少数では塩釜市（2,404人減）

図表1 白石市の人口の推移 (人)

	人 口	増 減 数	増 減 数	
			自然増減	社会増減
2008年①	38,627	▲419	▲150	▲269
2009年	38,194	▲433	▲212	▲221
2010年	37,799	▲395	▲236	▲159
2011年	37,336	▲463	▲319	▲144
2012年	36,908	▲428	▲275	▲153
2013年②	36,459	▲449	▲250	▲199
②-①	▲2,168	▲2,168	▲1,292	▲876

資料：宮城県「住民基本台帳人口及び世帯数」

に次いで10位、減少率では村田町（6.3%減）に次いで13位となっている。また、表出していないが、2014年3月末現在の白石市の高齢化率（65歳以上人口÷総人口）は29.4%となっており、高齢化率が高い方から数えて16位となっている。

このように白石市の人口動向をみると、相対的に高齢化の進行度は中程度となっているが、人口の減少幅は大きい状況となっている。

また、白石市の就業者の状況をみると、2010年における白石市に常住する就業者数は1万6,684人となっており、うち白石市内で従業する者が1万1,060人（構成比66.3%）、市外で従業する者が5,624人（同33.7%）となっている。市外で従業する者の内訳は、仙台市や周辺市町を中心とした県内市町村が4,985人、隣接する福島県を中心とした県外が568人となっている。これを2005年と比べると、常住する就業者数は2,460人減少したが、その大半を市内で従業する者（2,427人減）が占める状況となっている。これは高齢化や後継者難などから農業や小売業を中心に個人事業者の

図表2 白石市の従業地別就業者数の変化 (人、%)

	2005年	2010年	構成比	増減数 ②-①
	①	②		
白石市に常住する 就業者 (A)	19,144	16,684	100.0	▲2,460
白石市内で従業	13,487	11,060	66.3	▲2,427
白石市外で従業	5,657	5,624	33.7	▲33
県 内	5,027	4,985	29.9	▲42
仙 台 市	1,339	1,251	7.5	▲88
蔵 王 町	808	837	5.0	29
大 河 原 町	660	686	4.1	26
柴 田 町	546	573	3.4	27
角 田 市	510	489	2.9	▲21
そ の 他	1,164	1,149	6.9	▲15
県 外	630	568	3.4	▲62
福 島 県	520	492	2.9	▲28
福 島 市	234	197	1.2	▲37
国 見 町	92	93	0.6	1
伊 達 市	92	90	0.5	▲2
そ の 他	102	112	0.7	10
そ の 他	110	76	0.5	▲34

注）従業地が不詳の者を含むため、総数が内訳の合計と一致しないものがある。

資料：総務省「国勢調査」

(注釈、資料とも図表3も同じ。)

廃業が進んだことや、工場や店舗の統廃合などに伴い製造業や卸売・小売業の従業者数が減少したことなどによるものである。

一方、2010年の白石市で従業する就業者数は、1万5,981人となっており、うち白石市に常住する者が1万1,060人（構成比69.2%）、市外に常住する者が4,850人（同30.3%）となっている。市外に常住する者の内訳は、大河原町や蔵王町など周辺市町を中心とした県内市町村が4,558人、福島県を中心とした県外が292人となっている。これを2005年と比べると、白石市で従業する就業者数は市内に常住する者を中心に2,521人減少した。

図表3 白石市の常住地別就業者数の変化 (人、%)

	2005年	2010年	構成比	増減数 ②-①
	①	②		
白石市で従業する 就業者 (B)	18,502	15,981	100.0	▲2,521
白石市内に常住	13,487	11,060	69.2	▲2,427
白石市外に常住	5,015	4,850	30.3	▲165
県内	4,641	4,558	28.5	▲83
仙台市	692	648	4.1	▲44
蔵王町	814	768	4.8	▲46
大河原町	764	792	5.0	28
柴田町	606	582	3.6	▲24
角田市	476	439	2.7	▲37
その他	1,289	1,329	8.3	40
県外	374	292	1.8	▲82
福島県	309	230	1.4	▲79
福島市	75	63	0.4	▲12
国見町	70	53	0.3	▲17
伊達市	85	65	0.4	▲20
その他	79	49	0.3	▲30
その他	65	62	0.4	▲3

これらの結果、白石市で従業する就業者のうち市外に常住する者から、同市に常住する就業者のうち市外で従業する者を差引いた就業者の流入・流出超過数は、2010年で774人の流出超過となっている。流出超過幅は2005年（642人の流出超過）に比べ132人拡大しており、この間、雇用の場の縮小と雇用の創出力あるいは吸引力の低下が進んだことがうかがわれる状況となっている。

(2) 産業動向

2010年度の白石市の市内総生産は963億円となっており、県内市町村別順位は16位となっている。これを経済活動別にみると、製造業が250億円（構成比26.0%）と最も大きく、次いでサービス業が159億円（同16.5%）、不動産業が132億円（同13.7%）、政府サービス生産者が126億円（同13.1%）などとなっている。

また、2005年度と比べると、全体では95億円（9.0%）減少した。内訳をみると、不動産業が持ち家の帰属家賃の増加に伴い5億円（増減率4.3%、寄与度0.5ポイント）増加し、運輸業および農林水産業が概ね横ばいとなったが、リーマンショック後の利鞘の縮小などに伴い金融・保険業が35億円（同49.3%、同3.3ポイント）の減少と半減したほか、製造業やサービス業、卸売・小売業なども軒並み減少している。

一方、特化係数をみると、白石市では、情報通信業（特化係数0.56）や卸売・小売業（同0.60）などの特化度が小さく、製造業（同1.91）や農林水産業（同1.62）、運輸業（同1.13）などの特化度が大きい状況となっている。

図表4 白石市の市内総生産の変化

(億円、%、%ポイント)

	2005年度	2010年度	構成比	増減			特化係数
				実額	増減率	寄与度	
農林水産業	23	23	2.4	0	1.0	0.0	1.62
製造業	268	250	26.0	▲17	▲6.4	▲1.6	1.91
建設業	56	46	4.8	▲10	▲17.8	▲0.9	0.84
電気・ガス・水道業	23	22	2.2	▲1	▲4.9	▲0.1	0.77
卸売・小売業	89	78	8.1	▲11	▲12.1	▲1.0	0.60
金融・保険業	72	36	3.8	▲35	▲49.3	▲3.3	0.95
不動産業	126	132	13.7	5	4.3	0.5	0.86
運輸業	51	52	5.4	1	1.4	0.1	1.13
情報通信業	27	25	2.6	▲3	▲9.6	▲0.2	0.56
サービス業	175	159	16.5	▲16	▲9.3	▲1.5	0.84
政府サービス生産者	132	126	13.1	▲6	▲4.6	▲0.6	1.10
その他	17	15	1.5	▲2	▲14.5	▲0.2	0.72
市内総生産	1,058	963	100.0	▲95	▲9.0	▲9.0	1.00

注) 特化係数=(白石市のA産業の構成比)÷(宮城県のA産業の構成比)

資料: 宮城県「市町村民経済計算」

以上から、白石市の産業動向を概括すると、同市の基幹産業は市内総生産や特化係数からみると、製造業および運輸業、農林水産業といえるが、主力の製造業については、電子部品や情報通信機械を中心に高水準の技術力と生産力を有する工場が立地しているものの、近年は世界的な需給動向などを反映して振れの大きい動きとなっており、総じてみると伸び悩みの状況となっている。一方、卸売・小売業およびサービス業の生産額の減少幅が大きく、特化度も低い状況にあることから、購買力が市外に流出している状況が読み取れる。

2. 白石市の今後の成長の方向性

以上のように、白石市の人口および産業動向をみると、人口と就業者数の減少が進む中、基幹産業を含めて市内総生産が減少しており、厳しい状況となっている。今後は本格的な人口減少社会の到来に伴い、このような状況が加速度的に進行することが懸念される。

経済成長率は、長期的には労働投入量、資本ストック量、TFP（全要素生産性）の三つの生産要素の伸び率に規定されるが、人口減少や高齢化が進行していく下では、労働投入量と資本ストック量は減少あるいは伸び悩むこととなる。したがって、このような状況の中で経済成長を遂げていくためには生産性を引上げてこれらの落込みをカバーしていくことが不可欠となる。

因みに、白石市の生産性の状況をみると、図表5、6のとおりとなる。図表5は、2010年度における白石市の主な産業の就業者一人当たり市内総生産を宮城県と比べたものであるが、これをみると農林水産業が宮城県をやや上回る水準にあるが、製造業、建設業、卸売・小売業は宮城県の水準をかなり下回る状況となっている。

また、図表6は、県内市町村の就業者一人当たり市町村内総生産(2010年度：生産性の水準)とその増減率(対2005年度比)をプロット(基準値は宮城県の数値)したものである。ここでは白石市は第2象限に位置し、増減率(5.3%増)では宮城県(4.1%減)を上回るものの、生産性の水準(6,025千円、市町村別順位：31位)はかなり低位にあることが分かる。

このように白石市の生産性の水準は低位にあるが、今後の成長を促すためにはこれを引上げることが肝要となる。具体的には、基幹産業である製造業において、高付加価値型の製造業の集積を図ることと、地域資源を活用した交流人口の拡大を通して、卸売

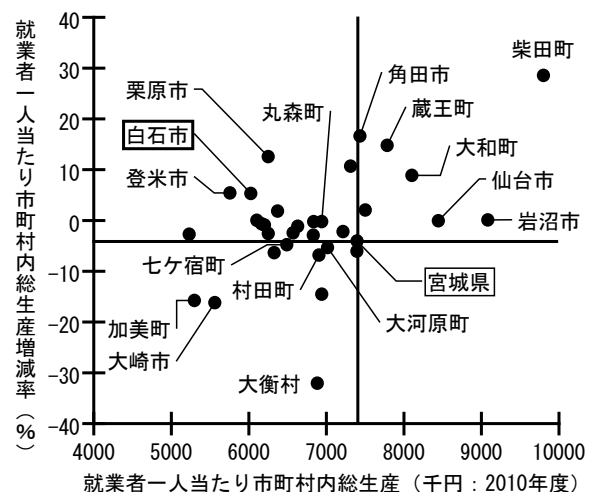
・小売業およびサービス業の生産性を高めることが効果的と考えられる。

図表5 白石市の主な産業の就業者一人当たり市内総生産(2010年度) (千円)

	白石市	宮城県	差異
農林水産業	2,265	2,232	33
製造業	5,179	7,639	▲2,461
建設業	3,514	4,709	▲1,195
卸売・小売業	3,772	5,339	▲1,567
総生産	6,025	7,396	▲1,371

資料：宮城県「県民経済計算」「市町村民経済計算」、総務省「国勢調査」(図表6も同じ。)

図表6 宮城県内市町村の就業者一人当たり市町村内総生産および同増減率(2005年度対2010年度)



注)2010年度に特定企業等の増産等により市町村内総生産が大幅に上振れした松島町、女川町、七ヶ浜町を除く。

(1) 高付加価値型製造業の集積促進

白石市の製造業は、電子部品や情報通信機械、食料品などが主要業種となっており、大手メーカーの基幹工場等が立地している。同市の製造業の生産性を高めるためには、これらの主要工場のサプライヤーとなる企業の集積を図ることにより、市外への付加価値の流出を抑えながら、生産誘発効果を高めることが効果的となる。

また、当市は東北新幹線・白石蔵王駅および東北自動車道・白石ICを有し、人流・物流の拠点性を備えているが、このような特性を積極的に活用した取組みが求められる。折しも、震災以降、セコム工業(株)が本社工場を白石インター工業団地内に移転・新增設したほか、溶接基礎鉄筋製造大手のメクス(株)が同工業団地近隣の天王工業団地内に東北地方の生産拠点として工場を新設し

た。また、製造業ではないが、日用品等の生活必需品卸の最大手である(株)Paltacが同工業団地内に南東北一円をカバーする大規模最先端物流センターを建設するなど、白石IC周辺への企業立地が進展している。このような一連の企業進出の効果は徐々に当市の産業基盤の強化や生産性の向上に寄与してくると考えられる。企業進出の背景には東北域内における同ICのロケーションの優位性が大きく影響しているものと考えられるが、この優位性を十分に活用し、更なる企業進出を促進することにより、生産性の向上に繋げていくことが肝要になると思われる。

(2) 地域資源を活かした交流人口の拡大

A. 交流人口（観光客入込数）の現状と課題

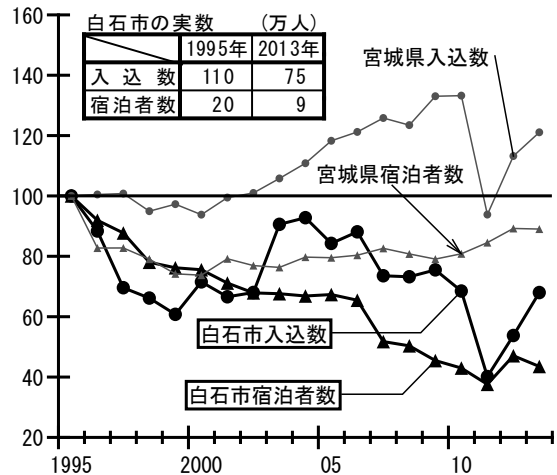
白石市は、白石城・武家屋敷と鬼小十郎まつり等の歴史・文化、材木岩や南蔵王等の自然、温麺や弥治郎こけし等の特産物、鎌先温泉、小原温泉等の温泉、さらにはスキー場など、多様で魅力的な地域資源に恵まれている。

ここで白石市の観光客入込数の推移（図表7、1995年=100）をみると、同市の入込数には波がみられるものの、趨勢としては減少傾向となっており、2013年の入込数（指数68.0）は1995年に比べ約3割減となっている。特に、宿泊者数の落込みが激しく、2013年の宿泊者数（同43.5）は95年に比べ約6割減となっている。一方、宮城県全体の入込数は震災後を除くと2000年代前半から右肩上がりでも推移し、宿泊者数は概ね横ばい圏内で推移しており、白石市とはかなり異なった動きとなっている。

これは宮城県の場合は、入込数については、「みちのくYOSAKOIまつり」や「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」など、仙台市を中心としたまつり・イベントの集客力が高まったことや、90年代中頃より県内各地で「道の駅」への登録施設が増加し、かつ、それらの集客が総じて順調に推移したことなどによるものである。因みに、「道の駅」の入込数については、2001年には245万人（県内9駅）で県全体の入込数（4,575万人）の5.5%であったものが、2013年には657万人（同12駅）と2.7倍に増加し、県全体（5,569万人）に占める割合も11.8%に達している。また、宿泊者数については、仙台市を中心に宿泊者数が底堅く推移したことなどが要因となっている。

このように白石市では豊富な地域資源を活用し切れしていない状況にあり、如何にしてこれらを活用し、集客力を高め、交流人口の拡大に結び付けていくかが大きな課題となっている。

図表7 白石市の観光客入込数の推移（1995年=100）



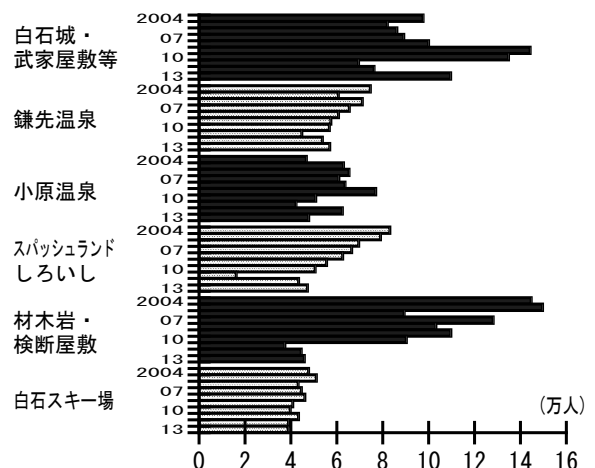
資料：宮城県「観光統計概要」（図表8、9も同じ。）

B. 交流人口の拡大に向けて

① 「(仮称) 小十郎・戦国浪漫回廊」の形成

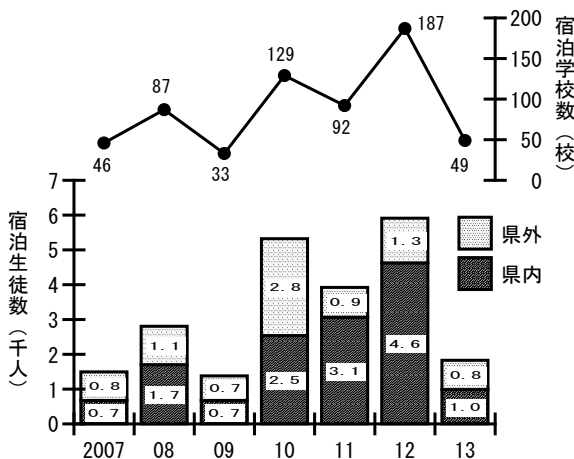
白石市の交流人口については、上述したような課題を抱えている。ただし、主要観光地点別の入込数の推移（図表8）をみると、鎌先温泉から白石スキー場までが軒並み減減傾向で推移している一方、白石城・武家屋敷等は増加傾向を示しており、震災後の落込みからもかなりの回復がみられる。これは、近年、ゲームソフト「戦国BASARA」等に伴ういわゆる歴女ブームなどを背景に、

図表8 白石市の主要観光地点別観光客入込数の推移

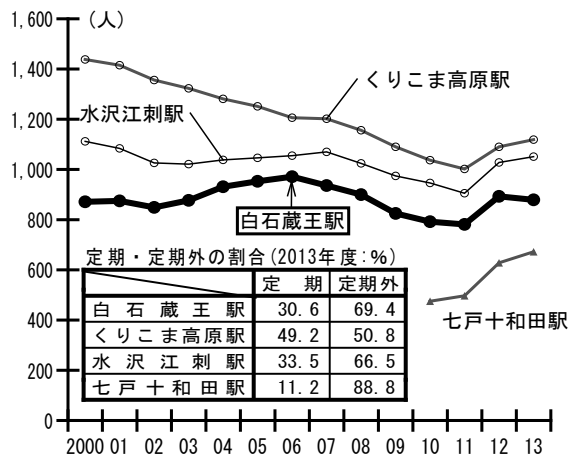


片倉小十郎の居城であった白石城の集客力が高まったことが主因と思われるが、このようなソフトとハードの双方を併せ持った地域資源は交流人口の拡大を図る上で極めて効果的に作用すると考えられる。因みに、当市における片倉小十郎に係る取組みをみると、大阪夏の陣における片倉軍・真田軍の合戦シーンを再現した「鬼小十郎まつり」の開催や、当市公認の武将隊・観光大使「白石戦国武将隊 奥州片倉組」の結成と各種イベントへの出陣、当市PRキャラクター「ポチ武者こじゅーろう」の制定と活用、「戦国BASARA4キャラクター 片倉小十郎×真田幸村」をラッピングした市民バスの運行、各種関連グッズの販売など、様々な取組みが行われている。正に片倉小十郎を核としたまちづくりが進展しており、今後もこのような取組みを助長していくことが肝要になると考えられる。

図表9 白石市の教育旅行宿泊学校数・生徒数の推移



図表10 白石蔵王駅の乗車人員の推移（1日平均）



資料：JR東日本旅客鉄道(株)HPほか

また、2016年のNHK大河ドラマで片倉小十郎と関係が深い真田幸村を主人公とした「真田丸」が放映される予定となっている。これは白石市を全国的にアピールする千載一遇の好機となることから、関連自治体や周辺自治体と連携し、積極的な情報発信に努めるとともに、誘客に向けた具体的な方策を自治体、企業、住民などが一体となって推進することが必要となる。

さらにこのような取組みを発展させ、白石城周辺地域を当市の交流人口の核としながら、先述した自然、特産物、温泉などの地域資源を、ストーリー性を持たせながら繋いだ回遊ルート「(仮称)小十郎・戦国浪漫回廊」の形成に結び付けるなどの取組みが求められる。なお、その際には、現在でも相応の集客力があり、将来のリピーターとしても有望な教育旅行(図表9)の招致促進や、本来、期待される優位性が活かし切れていない東北新幹線・白石蔵王駅(図表10)の効果的な活用方策などにも取組む必要がある。

②「道の駅」設置の検討

元来、道路利用者の休憩施設として設置された「道の駅」は、その後単なる休憩施設としての機能のみならず、特産物や観光資源を活かした集客機能を併せ持つ地域の交流拠点へと進化してきている。中にはそれ自身が観光の目的地となっているものも現れているなど、今や「道の駅」は交流人口の拡大を通して、地域の雇用と付加価値を創出する中核的な施設となっている。

全国の「道の駅」の登録数は、2014年10月10日現在で1,040駅となっており、本県では12駅が登録されている。本県の「道の駅」の概況(図表11)をみると、登録時期については1990年代半ばが多く、2000年以降では5駅となっており、直近では2010年の「村田駅」となっている。また、入込数(2013年)は、「あ・ら伊達な道の駅」が344万人と突出しているが、これを除いた11駅で見ると、平均入込数が28万人(標準偏差17万人)、中位数が24万人となっており、1駅当たり概ね20万人台の集客力を有する状況となっている。因みに、この入込数は先述した当市の主要観光地点(6地点)の2004年以降における入込数のピーク値を上回るものとなっている。

一方、「道の駅」の所在地に着目すると、登米市や大崎市など仙北地域に集中しており、仙南地域では村田町、七ヶ宿町の2箇所止まっている。

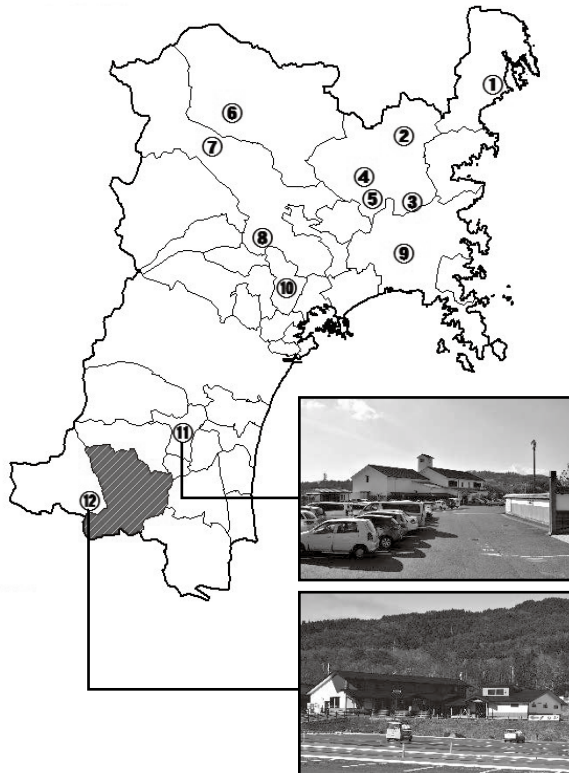
また、主要幹線道路である国道4号の仙台市以南においては、宮城県内を含め、福島県二本松市の「安達駅」まで「道の駅」が設置されていない状況となっており、この地域は言わば「道の駅」の空白地帯となっている。

このように県内の「道の駅」の状況を見ると、相応の集客力を有するものとなっており、また、白石市周辺地域は「道の駅」の空白地帯となっていることが分かる。したがって、このようなロケーションをベースとして、当市において「道の駅」の設置を検討する余地は十分にあると考えられる。

図表11 宮城県内の「道の駅」一覧 (万人)

駅名	市町村	路線名	登録年	入込数
① 大谷海岸	気仙沼市	国道45号	1996年	12
② 林林館	登米市	国道346号	2003年	30
③ 津山	登米市	国道45号	1994年	28
④ みなみかた	登米市	古川佐沼線	2004年	37
⑤ 米山	登米市	国道346号	1998年	20
⑥ 路田里はなやま	栗原市	国道398号	1995年	14
⑦ あら伊達道の駅	大崎市	国道47号	2000年	344
⑧ 三本木	大崎市	国道4号	1995年	21
⑨ 上品の郷	石巻市	国道45号	2004年	72
⑩ おおさと	大郷町	大和松島線	1996年	43
⑪ 村田	村田町	亶理大河原川嶺	2010年	24
⑫ 七ヶ宿	七ヶ宿町	国道113号	1993年	11

注) 入込数は2013年の計数。 資料：宮城県HPほか



もっとも、単に施設を設置すれば集客が図られるわけではなく、自治体と地元事業者との十分な連携を前提として、詳細なフィージビリティスタディを行うとともに、具体的な施設の構成やオペレーションなど集客を図るための効果的な運営方法を確立する必要があることは言うまでもない。

「道の駅」は、地域の旬な農水産物やそれらを活用したご当地メニューの開発・提供などと併せて、独自の地域文化や観光情報の発信拠点としても重要な役割を果たすことが期待される。繰り返になるが、当市には豊富な地域資源があるが、これらを十分には活かし切れていない面がある。こうした中で、地域資源の活用と交流人口の拡大を図る仕掛けの一つとして、「道の駅」の設置を検討することには少なからぬ意義があると思われる。

なお、ここでは地域資源を活かした交流人口の拡大策として「(仮称)小十郎・戦国浪漫回廊」の形成と「道の駅」の設置の検討という二つの考え方を提案したが、いずれにおいても肝要となるのは当市に「お金が落ちる仕組み」を構築することである。交流人口・観光入込数が拡大しても当市での需要が増加しなければ経済的な効果は得られない。従って、入込客一人ひとりの当市での消費額を増やす仕組みと、消費する財・サービスに係る当市の自給率(原材料の調達割合)を高める仕組みをつくり上げることが求められる。

おわりに

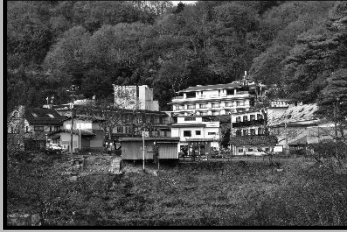
以上のように、白石市の経済産業の現状と課題等についてみてきたが、人口が減少傾向を辿る中、基幹産業が伸び悩むなど、総じて厳しい状況にある。もっとも、当市は、高速道路や新幹線などの高速交通網や主要幹線道路網におけるロケーション上の優位性を有しており、それらを活用した企業誘致や道の駅の設定などの施策を講じることを通して、生産性の向上と交流人口の拡大を図る余地は十分にあるものと考えられる。また、当市は優れた地域資源を数多く有しており、それらを活用したまちづくりが進められているが、今後はこのような取組みをより強化し、国内あるいは海外からもより多くの集客を図れるような仕組づくりが求められよう。このような観点も踏まえ、当市がその地域特性を十分に活かし成長していくことを期待したい。

(大川口 信一)

白石市の主な地域資源・「(仮称)小十郎・戦国浪漫回廊」のイメージ

鎌先エリア

【鎌先温泉(鎌先温泉橋より)】



【鎌先温泉・旅館街】



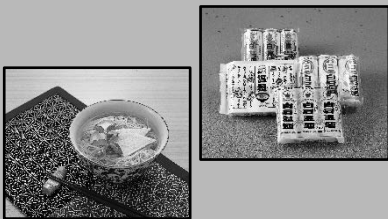
【弥治郎こけし村】



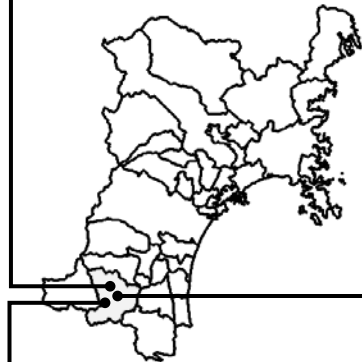
【弥治郎こけし村・工房群】



【白石温麺】



(「白石温麺」写真提供:宮城県観光課)



白石城エリア(核)

【白石城天守閣】



【同上・大手二階門側より】



【片倉家中武家屋敷】



【白石蔵王駅】



小原エリア

【材木岩】



【材木岩公園】



【検断屋敷】



【小原温泉】



【スパッシュランドしろいし】

